

# 離婚を経験する子どもと家族への心理的支援(1)

—文献レビューから見えてくること—

The Mental Support for Children and Families on divorce

—Through a review of studies—

本田麻希子<sup>1</sup>, 大瀧玲子<sup>2</sup>, 曾山いづみ<sup>3</sup>, 山田哲子<sup>4</sup>, 平良千晃<sup>5</sup>, 福丸由佳<sup>6</sup>, 中釜洋子<sup>7</sup>

Makiko Honda, Reiko Otaki, Izumi Soyama, Tetsuko Yamada, Yuka Fukumaru, and Hiroko Nakagama

東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース<sup>1,2,3,4,5,7</sup>; 白梅学園大学子ども学部<sup>6</sup>

The University of Tokyo Graduate School of Education<sup>1,2,3,4,5,7</sup>; Shiraume Gakuen University<sup>6</sup>

Key words: 離婚, 子ども, 家族支援, 心理教育

## 目的

日本では年々離婚率が上昇し、2002年には史上最多の2.30となり、その後も2.0前後を推移している。

日本の離婚家庭の特徴として、経済的な問題を抱えた母子家庭で、協議離婚という社会的な介入やサポートを受ける機会が少ないことがいえる。このような日本における離婚家庭に対して、夫婦が離婚後も子どもの養育のために良好な関係を築き、離婚が子どもに与える影響を最小限にとどめるための心理援助が求められている。

本研究では離婚の影響に関する文献と、離婚家庭への援助に関する文献について、日本国内の文献、米国の文献を概観し、今後の日本における離婚家庭とその子どもへの心理援助について考察を行うこととする。

## 方法

離婚が子どもと家庭に及ぼす影響についての研究と離婚家庭への援助に関する研究について、日本国内の文献と米国内の文献を2000年から現在までを中心に検索し、結果について検討を加えた。

## 結果

日本における離婚研究は、まず事例研究が行われてきた。棚瀬(2004)は心理面接4事例、野口(2006b)はスクールカウンセリング3事例を通して、親の離婚が子どもにもたらす心理的影響について検討している。

さらに、調査面接によって、離婚当事者の体験や離婚のプロセスが明らかにされている。離婚を経験した子どもの体験について明らかにした小田切(2005)、母子家庭の家族システムとその回復プロセスについて検討した堀田(2005)、などがその例としてあげられる。

さらに、日本における離婚家庭への援助については、大阪家庭裁判所で試験的に導入された父母教育プログラムを検討した安部ら(2003)が重要な示唆を与えている。

米国における離婚研究は、近年顕著な発展があったが、現存する調査結果は未だ十分とは言えず、更なる研究が必要であろうとの指摘がなされている(Amato, 2010)。

Kelly & Emery (2003)は離婚家庭の子どもを援助する上でシステムズ・アプローチの重要性を説いており、その

ような視点からの紛争解決プログラムの一例としてBrown et al. (2009)によるPACTプログラムがある。

## 考察

今後、日本においては縦断的調査や多数のサンプルを対象とした調査を通して、離婚が子どもや家庭に及ぼす影響の一般的な傾向を明らかにする必要がある。離婚を経験する親や子どもに対する援助についても、米国のプログラムなどをモデルにした小規模な援助を行っている現状から、今後は、より日本の文化にあったプログラムの開発と多数の離婚を経験する親子を対象にした実践が求められる。

## 参考文献

- 安部隆夫ら(2003) 面接交渉等に関する父母教育プログラムの試み 家庭裁判月報 55(4) p.111-172
- Amato, P.R. (2010) Research on divorce: Continuing trends and new developments. Journal of Marriage and Family, 72, 650-666.
- Brown, J.H. et al. (2009) PACT: A collaborative team model for treating high conflict families in family court. Juvenile and Family Court Journal, 60(2), 49-67.
- 堀田香織(2005) 母子家庭の家族システムと回復プロセス—学童期の男児を抱える母子家庭を対象として 心理臨床学研究 23(3) p.361-372
- Kelly, J.B. & Emery, R.E. (2003) Children's adjustment following divorce: Risks and resilience perspectives. Family Relations, 52, 352-362.
- 野口康彦(2006b) 親の離婚が子どもの精神発達に及ぼす心理的影響の一考察—スクールカウンセラーの立場から 中央学術研究所紀要 35 p.80-89
- 小田切紀子(2005) 離婚家庭の子どもに関する心理学的研究 応用社会学研究 15 p.21-37
- 棚瀬一代(2004) 離婚の子どもに与える影響—事例分析を通して 現代社会研究 6 p.19-37